



知識偏重の教育社会のなかで、とても大切なことです。〈わ〉のイベントで、こうしたことを伝えていきたいと思えます。

◆山本都子 グループ〈わ〉へのお誘いを受け、私でも何か出来ることがあるのならと思ひ、お世話になることになりました。財務関係の仕事をお手伝いさせていただきます。経験してきた会社の経理とは違うかもし

会員増と新鮮力をどう生かすか

【視点】新入会員が196人と好調で、組織全体では初めて1,300人を突破した。総会の出席者も約200人と、例年より2割以上増え、グループ〈わ〉への関心が高まったのは喜ばしいことだ。

24年度の事業規模は約3900万円。2つの電話相談や未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を福祉関係の助成金と190万円の年会費などで補う形になっている。収支は若干ではあるが黒字に転換した。赤字だったパソコン講座も受講者増で持ち直し、〈わ〉本部と環境未来館の手当てを削減して収支の改善を図った。

25年度は、会費収入が若干増えるが収支構造に変化はない。東北支援は継続するが、助成金の枠は細ってきており活動内容の見直しが求められる。加えて、KSCの20周年記念行事や花実の森の整備があり、財務的にはきびしい局面が続く。

一方、執行部は16・17期の理事が運営の中心となり若返った。団塊の世代を巻き込んだボランティア活動・イベント事業をどう展開していくか。会員増をどう生かしていくか。〈わ〉の活動も10年目を迎えて、ターニングポイントに入ったといえるだろう。(井口)

会員のお手伝いに頑張る 新理事抱負

◆片岡隆夫 「再び学んで他のために」とのフレーズを3年間聞いてきた。〈わ〉はこの精神を汲んで実践しているとのことなので、私も何程のことが出来るかと、思案しながら参加しました。たくさんの会員が、各部会や区会で多岐にわたり活動されており、足手まといにならないよう頑張りたいものです。

◆田路(とうじ)義弘 在学中ケナフの活動を通じて痛感したことは、「作品の出来栄を見て子どもたちを褒める」ということでした。物を作ったり工夫したりする楽しさを学び、自信を持たせることは、

れませんが、頑張りたいと思えます。

◆吉本 弘 卒業後は、今度こそワーグナーに酔おう、ハンモックの上で本を読もうと考えていたところ、今年初めに諸先輩から、グループ〈わ〉へのお誘いがあり、これらの思いをまたの楽しみに残して、何かのお役に立つならばと思ひ、お手伝いすることになりました。

◆俵貴志子 卒業後1年間は、環境部会の里山クラブにお世話になりましたが、グループ〈わ〉では総務関係を担当させていただきます。〈わ〉の存在は知っていましたが、その仕事量の多さに驚いています。わからない事ばかりですが、会員の皆様のお役に立てれば、と思っています。

◆北村 洋 カレッジの3年間はアッという間に過ぎてしまいました。卒業後はクラブOB会に所属して過ごそうと考えていたところ、縁あってグループ〈わ〉の広報をお手伝いすることになりました。戦力になるまで時間がかかると思いますが、どうかよろしくお願いたします。

【写真】200人を超える出席者で満席状態の会場

〈わ〉と一緒に活動しませんか

シルバー人生を実り豊かにするために、グループ〈わ〉の仲間に加わってボランティア活動を楽しみませんか。趣味や特技を生かしてのサークル活動、区単位の地域活動や学習支援活動・子供たちの電話相談など、私たちが活躍できる場はたくさんあります。在校生・卒業生・一般参加を問わず、入会をお待ちしています。

●部会・区会・本部のもとに、約60のサークルがあり、福祉・環境・国際・文化・いきがいの5部会に分かれ活動しています。区会は各区ごとにおかれ、在校生や自治会とも連携して河川・公園の清掃、小学校での見守り活動などを行っています。

●本部事業 環境未来館・一ノ谷プラザの運営。子どもを対象とした虐待やいじめ問題の電話相談。小学校や水の科学博物館との協働イベントなど、年間を通してさまざまな活動を行っています。

問い合わせは、わ事務局へ(743-8101)